北海道医報
ISSN 0913-0217　2026.3.1.　第1290号
発行人　北海道医師会長　松家　治道
編集人　情報広報部長　橋本　洋一
発行所　北海道医師会
〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目
TEL (011) 231-1432　FAX (011) 221-5070
URL http://www.hokkaido.med.or.jp
E-mail info@office.hokkaido.med.or.jp　頒価 1部 275円（税込）

季節風

スズメは《環境破壊の早期警告者》

情報広報部長　橋本（はしもと）　洋一（よういち）

最上階にある小さな隠れ家であるマンションの一室、その東に面したバルコニーのフェンスに雪が5～6㎝積もった。その雪の上に20羽ものスズメがチュンチュンと鳴きながら列をなしていて、その鳴き声で目を覚ました。雪がしんしんと降る過酷な北国の冬、元気に飛び回っている姿をみて、今日一日活動できるエネルギーをもらったような気持ちになった。

スズメは平安時代の枕草子や源氏物語でも身近な心ときめく可愛い存在として書かれている。スズメはご承知の通り、雌雄同色で濃淡のある褐色調の色合いをしている全長15㎝前後の小鳥で、私たちにとって最も身近に見ることができる愛らしい小鳥である。バルコニーのフェンスにしっかり止まっていて滑り落ちることもない強靭な脚力を有している。

私たちの病院の壁に巣をつくり、ひな鳥たちに餌を渡そうと巣と餌場の間を、巣立ちまでの2週間４０００回にもわたって往復する姿は感動的だ。

１９３４年に設立された日本野鳥の会に入会して20年経過したが、絶滅危惧種であるシマフクロウ保護キャンペーンを契機に生涯会員になった。創立者には詩人の北原白秋氏、高校の先輩である金田一春彦氏らが名を連ねられ、柳生家の末裔であり青春ドラマ《飛び出せ！青春》で教頭の腰巾着の教師役を演じられた柳生　博氏が、第5代会長に就任されていた。

日本で最も身近な野鳥であるスズメが１９９０年代から２０００年代にかけて約半数に減少したという推論があり、大きな環境変化のサインとして受け取られている。

スズメ減少の原因として①木造家屋から気密性の高い近代的建築への変化に伴う巣づくり場所の減少、②農薬使用による餌の減少、③都市開発による緑地・空き地・水場の減少が挙げられる。上記の3項目は人間の居住地と重なるために、迅速に改善できないという難点がある一方で、健全な環境の再構築が必要であることを示唆している。

人口増加がスズメの減少に大きな影響を与えていると思われがちだが、人口減少の局面に入っている日本でもスズメの個体数の減少が持続していることから、人口数がスズメ減少の直接的原因とは考えにくく、都市化の進行度合い、生活様式の変化そして気候変動や山林火災のような地球規模の災害の増加がより直接的に深く関わっていると考えられる。

スズメは日本および国際自然保護連合（ＩＵＣＮ）のレッドリストでは絶滅危惧種には分類されていない。しかし、スズメの個体数が１９９０年頃の20％から50％に減少し、１９６０年代の約１／10に減少したという推計がある。ＮＰＯ法人バードリサーチは毎年、前年の約２・６％の個体数が減少し、26年間で半減すると予測している。

スズメは日本全国に広く分布し、人間の生活環境と密接に関わる《普通種》である。生物学的には希少種ではなく《普通種》が減少し始めることは、環境劣化が広範かつ構造的に進行している兆候とされる。

スズメの減少は絶滅危惧種の仲間入りしたというよりは、私たちの生活環境全体に生じている変化を映し出す《環境破壊の早期警告者》といった側面を示しており、広義の意味での自然環境を保護する存在として位置づけることができる。

日本野鳥の会はスズメの減少を背景となる生息地や餌の減少を防ぐため、スズメの調査・モニタリング・生息環境の保全、小冊子『こんにちはスズメ』の無料配付や寄附キャンペーンといった啓蒙活動を通じて、スズメと人間が共存できる環境を守る活動を行っている。私も微力ながら、この活動に参加させていただこうと思っている。